



Title	本邦産草蜻蛉の既知種に就きて
Author(s)	岡本, 半次郎
Citation	札幌博物学会会報, 5(1), 49-60
Issue Date	1913-07-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60871
Type	journal article
File Information	Vol.5No.1_006.pdf



本邦産草蜻蛉の既知種に就きて

農學士 岡本半次郎

UEBER DIE BEKANNTEN ARTEN DER JAPANISCHEN CHRYSOPIDEN

Von

H. OKAMOTO, *Nogakusi*.

本邦産の草蜻蛉は十九世紀の中葉、獨人フルマイステル氏 (Burmeister, H.) によりて初めて學術界に發表せられたるに始まり、爾來數多の昆蟲學者によりて命名せられ或は紹介せられたるもの約二十種を算す。然して余が現在の智識に於ては、此等は悉く確定種のみにあらずして異名となるものあり (例せば *Ch. perla* (L.) var *fracta* Náv. は *Ch. intima* M'L. の、又 *Nothoch. robusta* Gerst. は *Ch. cognata* M'L. の異名なるが如し) 或は又誤認せられし種あるの結果、本邦産草蜻蛉の既知種は下の十二種となる、即ち

- | | |
|--------------------------------|---------------|
| 1. <i>Chrysopa intima</i> M'L. | くさかげろう |
| 2. <i>Ch. perla</i> (L.) | — |
| 3. <i>Ch. cognata</i> M'L. | よつほしくさかげろう |
| 4. <i>Ch. bipunctata</i> Burm. | ふたほしくさかげろう |
| 5. <i>Ch. lezeyi</i> Náv. | もんくさかげろう |
| 6. <i>Ch. remota</i> Wk. | りゅうきうくさかげろう |
| 7. <i>Ch. basalis</i> Wk. | ひめりゅうきうくさかげろう |
| 8. <i>Ch. inornata</i> Mats. | むもんくさかげろう |

9. *Ch. sachalinensis* Mats. からふとくさかげろう
 10. *Nothochrysa japonica* M'L. セあかくさかげろう
 11. *Nothoch. olivacea* Gerst. あをせくさかげろう
 12. *Apochrysa matsumurae* Okam. あみめくさかげろう

是なり。以上の他猶一二種の日本に産するが如く思はるゝものあり、例へば本科中最も分布廣き *Ch. vulgaris* Schn. 及びこれが變種なる *Ch. vulgaris* Schn. var. *microcephala* Brau. の如し、然りと雖も此二種は未だ孰れとも確定するに至らず。殊に又前配の既知種以外、余の手許に、より多くの新種あるも、これを發表せんには猶ほ幾多の日子を要するを以て、今は單に既知種に就きての研究結果を報告するに止め、新種の發表は他日を約せざるべからざるなり。加之本報告も未だ標本不備にして、その結果完璧を期し難しと雖も亦以て本邦産草蜻蛉を研究する人士の参考となるを信ず。終りに本科の昆蟲を研究せらるゝ及びせられんとする諸氏の、余に標本を御惠送せられん事を切望す。

因に、種の記載はなるべく簡明を旨とせり、但つ種を鑑定する上に於て重要な諸點は悉く記載せり、然れども標本不足のため原記載を譯述せしものは、自分乍ら大に不明瞭の嫌あるも、こは今の場合致方なし。

1. *Chrysopa intima* M'L. くさかげろう

Chrysopa intima M'L., Trans. Entom. Soc., Lond., p. 230 (1893).

Chrysopa perla L. var. *fracta* Náv., Brotéria Serie Zool., vol. IX, fasc. 1, p. 39 (1910).

體綠色。頭部黃色、觸角間に $\propto$ 形の黒紋あり。後頭縁に近く四黒點を横列し外側の二個は複眼に接觸す。兩頬に各一黒線、額片の前縁に近く、兩側に稍圓形を呈せる一黒紋あり。觸角黃褐、尖端に至るに従ひ色濃く、第二節は黒褐なり。小腮鬚黃褐、その尖端及び基節は黒褐なり。前胸の兩側に普通各二個の黒紋あり(マ氏の原記載には三個とあり)。中胸背の前縁に黑色の一横線あり、中後兩胸の前肩板 (*Scapulae anteriores*) に三個の黑色點あり、 $\cdot$ 形に位置す、前胸板中胸板

及び後胸板は黒色」 脚綠色、跗節淡褐、翅透明、翅脈綠色、前翅の横脈の大部、後翅の前縁横脈、徑小横脈及び段横脈 (Gradate Nervulus) は黒色なり、脈に黒褐色の短毛を生ず」

體 長 9—13 耗

前翅長 13—17 耗

分布 北海道(札幌)、本州(信濃國八ヶ岳、陸奥國十和田湖畔)。

東部西比利亞(ナウハス氏(11)による)。

本種はマクラ克蘭氏(8)が初めて記載したるものにして、一つの異名あり、即ちナウハス氏(9)の *Ch. perla* (L.) var. *fracta* Náv. 之れなり、此變種はその記載餘りに簡單なるも本種と同一種なることは疑なき所なり。而して *Ch. intima* は *Ch. walkeri* M'L. (ハンガリー産) *Ch. perla* (L.) 及び *Ch. ypsilon* Fitch. (米國産) に類似せり、殊にハーゲン氏(4)の記事により又余が所藏の標本(米國産)によりて識別するに最も *ypsilon* に近し、然れども觸角間の $\propto$ 紋が *ypsilon* に於て Y 形を呈せる事と、腹部の斑紋の有無により區別することを得る也。

因にくさかげろうなる和名は現今専ら *Ch. perla* に使用せらるゝも、*Ch. perla* の本邦に産する事につきては余に於て未だ未定の問題(*Ch. perla* の項参照)なり、又この和名は人によりて一定せず、各勝手に異なる種に附し、且又眞正の *perla* に該和名を附せし書なきの故にくさかげろうなる和名は比較的分布廣く殊に *perla* に最も近き本種に附するを適當と認む。

2. *Chrysopa perla* (L.)

Hemerobius perla L., Syst. Nat. Ed. 12, i. 2,911,2. (1768).

Chrysopa perla Schneider, Monogr. Chrys. 136, 43, pl. 49 (1851).

體綠色乃至黃色」 觸角間に $\propto$ 形の黒紋あるも、その尖端後頭に於て互に相癒着して、J 形を呈す。後頭にこの黒環の兩側に各一黒點を存在す。額片及び兩頬の兩側に各一黒線あり。上唇は黒色もて縁とられ、小腮鬚の基節及び末端節の大部黒色。觸角黃褐にして、その尖端濃く、第二節は黒色なり。雄にありては、體長より遙に長し」 前胸に四黒紋あり。中胸背の前縁に黒色の二横線、前肩板

(Scapulae anteriores) の兩側に、黒色の太き各一縦條、その内側に一黒點、稜状部と前肩板の接合線は黒色、後胸の兩側に各二黒紋、後胸背の接合部及び其後縁は黒色なり」 腹部は雄にありては、各環節の前縁は黒色なるも、雌にありては兩側と環節と環節との接合部を除きて、全部黒色なり」 翅透明、翅脈綠色乃至黃色なれども、横脈は悉く黒色なり。縁紋淡褐、脈に黒褐毛を生ず」 雄の下葉は短くして上方に屈曲せず、その尖端鈍なり」

體 長 10 耗

前翅長 13—15 耗

分布 日本(?)。歐羅巴。西比利亞。

本種はマクラ克蘭(8)氏が最初に本邦に産すと報告せり、後ち松村博士、(10, 13)及び著者(14)は樺太(日本領)及び北海道に産することを記し、近くは桑名伊之吉氏(15)の東京附近に産することを報ぜり。然るに余は其後研究を續けつゝある間に、殊に今回歐洲産の *Ch. perla* (本大學所藏)を見るに及びて本種の果して日本に産するや否やにつきて大に疑を懷くに至れり。而して曩に余が記載せし標本は當時簡單なる記事によりて検索せる結果 *Ch. perla* と全く同一種の如く考へしも、詳細に歐洲産のものと比較するに及び遂に其誤認なるを覺り(松村博士のもの亦同様なるべきか)同時に測らずも *Ch. intima* なるを知り得たり。又桑名氏が記載せし *Ch. perla* はその記事と圖版とによるに全然別種にして、而も *perla* とは餘程縁の遠きものなり。恐くは地球上最も分布廣き *Ch. vulgaris* か或は又之れが變種なるべし。マ氏は單に本邦に産すと記せしのみにて、採集場所を明記せず、余は數年以前より本種の採集に努力せるも猶ほ未だ真正の *perla* 一頭をも見るを得ず、又人々により *perla* なりとせらるゝ種も亦前記の如く異種なるの點よりして果して本種の本邦に産するやの疑問を生じ來る亦止むなきなり。但し前記マ氏及びナバス氏(11)の共に西比利亞に産することを記する點より考察すれば樺太、北海道及び本州の高山に産せずとも限らず、暫く記して將來の研究に待つべし。本種の記載は参考に資せんが爲め歐洲産の標本及びシュナイダー氏(2)の記事を參酌して記せるものなり。

因にくさかげろうなる和名は上記の理由により (Ch. intima の項参照) Ch. intima の専有物となせしを以て、更に本種に命名せざるべからざれども、本邦産として未だ疑問中にあれば、本種の確かに本邦に産することの明瞭となるの日改めて命名することゝせん。

3. *Chrysopa cognata* M'L. よつほしくさかげろう (新稱)

Chrysopa cognata M'L., Journ. Linn. Soc., IX, p. 249 (1867).

Nothochrysa robusta Gerst., Mitt. Ver. Neu-Vorpom. und Rüg. Sg., 25, p. 73 (1893).

體綠色又は黃色若くは黃綠色なり、綠色の個體にありては胸背に黃色の一中條を有す」 觸角黃褐、基部黃色、顔に四黒紋あり、二つは觸角の下にありて稍圓形を呈し、他の二つは額片の兩側にありて線狀を呈す、(顔にこの四紋あるもの最も普通なり又稀に此外觸角間に一黒紋を有するものあり) 兩鬚黃褐」 前胸前縁の側面に一黒紋あり」 脚黃色若くは綠色、跗節黃褐なり」 翅は透明、縁紋淡綠褐、翅脈綠色、前後翅の前縁横脈(縁紋内の横脈を除く)、前翅の後肘横脈及び臀横脈と、後翅の徑脈と徑脈第二小枝間の横脈は其前半部黑色、翅脈に黑色短毛を生ず」

體 長 13—15 耗

前翅長 19—21 耗

分布 北海道(札幌、定山溪)、本州(東京、甲府、紀伊、播磨)、九州(日向、熊本)。

西比利亞(ナバス氏)。支那(マクラ克蘭氏)。カンボチア(マクラ克蘭氏)。

本種はマクラ克蘭氏 (5) に依りて記載せられたるものにして Ch. septenpunctata (Wesm.) (歐州産) 及び bipunctata Burm. (日本産) に酷似す、マ氏の初めて験せし數多の標本中には一つも觸角間に一黒點を存するものなかりしかば主として此點より septenpunctata と區別したり、然るに一八七五年マ氏 (6) は再び日本産の草蜻蛉を験するに當り觸角間に一黒點ある一標本あるを知り本種を Ch. septenpunctata の地方形なりと斷定せるも、余は此說に賛せず、顔面の斑紋及び後翅脈

の彩色等に依りて本種を獨立せるものと認む、又 *bipunctata* Burm. よりは觸角前方の弦月形紋の有無によりて容易に兩者を區別し得べし。ゲルステッケル氏 (7) は一八九三年本邦産の二草蜻蛉を記載しその一を *Nothochrysa robusta* と命名せり、然るに本種の記事を詳細に研究すれば何人も直ちに該種は *Ch. cognata* の異名なるを知るに確からざる也。

因にマ氏は主として第三肘室 (3rd. Cubital cell) の形狀によりて *Chrysopa* より一屬を編成し *Nothochrysa* と命ぜり、然るに本邦産の草蜻蛉を研究するに當り、3rd. Cubital cell の形狀は同一種のうち種々あるを以て、此點を分屬の主眼とするは誤れり、追つて 3rd. Cubital cell に關する卑説を發表せんことを期す。

本和名よつほしくさかげろうは顔面に四個の黒點あるにより此名を附す。

4. *Chrysopa bipunctata* Burm. ふたほしくさかげろう

Chrysopa bipunctata Burmeister, Handbuch der Entomol., 2. Bd. p. 982 (1839).

„ „ Schneider, Monog. Chrysop., p. 103, tab. 31 (1851).

„ „ Walker, List Brit. Mus., p. 251, (1853).

„ „ Mac Lachlan, T.E.S., p. 182 (1875).

本種はよつほしくさかげろうに類似す、其主なる相違點を列記すれば次の如し。

イ、觸角箬入部の前後に弦月形の黒紋あり、時に兩者癒合して一環をなす。

ロ、眼の前方即ち頬にに一黒線あり。

ハ、前翅の段横脈 (Venulae gradatum) は (第一連又は第一第二連とも) 黒色なり。

ニ、翅脈の短毛黄褐色なり。

ホ、前種に比して小形なり。

體 長 11 耗

前翅長 17 耗

分布 本州 (?)。

本種はフルマイステル氏 (1) によりて記載せられたるものなれど同氏の記載は頗る簡單にして果して孰れの種を指すや考證に苦しむを以て余はシユナイダー

氏(2)の明細なる記事と圖版とによりて本種を判定せり。僅かに一標本(採集地不明)を見しのみ、極めて稀品なるものゝ如し、本種を鑑別する上に於て最も必要なる事は“*Stria arcuata lata, ante antennas conspicua*”にあり。

5. *Chrysopa lezeyi* Náv. もんくさかげろう (新稱)

Chrysopa lezeyi Návás, Brot. Ser. Zool., Vol. IX, fasc. 1, p. 42 (1910).

本種はふたほしくさかげろうに接近するも、顔面及び胸部の斑紋により容易に區別するを得るなり。

體黃綠色」 觸角間に一黒紋あり、觸角箝入部の前方に弦月形の黒紋及び兩頬並に額片の兩側に各一黒紋を有す、更に頭項に二黒點及び後頭に四黒點を横列す。觸角黃褐、基部は色濃く第一節の内側に一黒褐紋あり、第二節黑色なり」 前胸には溝の兩側に二黒點あり。前縁角の内側は黑色、中胸に八個、後胸に二個の黒點あり」 腹部に黒褐點多し」 翅透明、翅脈黃褐、前翅に於ては基部の前縁横脈及び徑小脈横脈は一部分黑色なり、翅の尖端圓し」

體 長 8.5 耗

前翅長 13 耗

分布 日本。

本種はナバス氏(9)によりて記載せらる、余未だ *Chrysopa* に屬する本種を見ざれども *Nothochrysa* (マ氏の分屬法に従へば)に屬する本種に極めて酷似せる一標本を有す、恐くは同一種なるべし。

因に本種は體に多數の黒紋を具ふるを以てもんくさかげろうと新稱す。

6. *Chrysopa remota* WK. りゅうきうくさかげろう (新稱)

Chrysopa remota Walker, List Spec. Neurop. Ins.-Coll. Brit. Mus., Pt. II, p. 238 (1853).

本種は *Ch. oceanica* (サンドウィチ島産)に近似す。

體煉瓦色」 觸角前翅より僅かに長し」 前胸は長さより幅廣く、前方に於て少しく狭し」 腹部錆色、尖端煉瓦色なり」 翅透明、翅脈綠色、段横脈 (gradate

veinlets) の第一連は先端に至るに従ひ不完全となる、肘小室 (Cubital areolet) は亞肘小室 (Subcubital areolet) の半分より小なり、縁紋淡煉瓦色」

體 長 11 耗

前翅長 約 16 耗

分布 硫球。ナウキガドル島。

7. *Chrysopa basalis* WK. ひめりゆうきうくさかげろう (新稱)

Chrysopa basalis Walker, List Spec. Neurop. Ins. Coll-Brit. Mus., Pt. II, p. 239 (1853).

本種は前種に近きも遙かに小形なり。

體錆色 (下面は煉瓦色) 觸角は基部に至るに従ひ煉瓦色となる」 前胸幅よりも少しく長く、その前端頗る狭し」 脚淡き煉瓦色」 翅透明、翅脈煉瓦色、段横脈 (Gradate vienlet) の第二連は先端に於て不完全となる、肘小室 (Cubital areolet) は亞肘小室 (Subcubital areolet) の半分より小なり」

體 長 6 耗

前翅長 9 耗

分布 硫球。

前記二種はウオーカー氏 (3) によりて命名せられ記載せらる、孰れも硫球の産なり。余未だ此二種を見るの機会なきを以て、ウ氏の記載を譯述せるに止まる。

8. *Chrysopa inornata* Mats. むもんくさかげろう

Chrysopa inornata Matsumura, Journ. Col. Agr. Tohoku Imp. Univ. Sapporo, Vol. IV, Pt. 1, p. 14 (1911).

本種はよつほしくさかげろうに類似す、但し頭部に黒紋なし。

體黄緑」 觸角淡黄褐、第一基節は黄緑、第二節は黒褐なり、小腮鬚黒褐」 前胸は長さより遙かに幅廣く、前縁角に近く各一黒褐紋あり、中後兩胸背に黄色の一中條あり」 脚淡黄褐、脛節は多少綠色を帶ぶ」 翅透明、縁紋淡黄褐、翅脈綠色、前縁横脈 (前後翅とも) 及び前翅の徑横脈、肘横脈、臀横脈は皆その基部に於て黒褐なり」

體 長 14—15 耗

前翅長 18—20 耗

分布 樺太(キムイナ)、本州(信濃上高地)。

9. *Chrysopa sachalinensis* Mats. からふとくさかげろう

Chrysopa sachalinensis Matsumura, Journ. Col. Agr. Tohoku Imp. Univ. Sapporo, Vol. IV, Pt. I, p. 14 (1911).

本種はもんくさかげろうに稍似たり、但し顔面の黒紋及び翅脈の彩色により區別し得べし。

體黄緑(胸部は綠色多し) 觸角(第一基節を除く)淡黄褐、觸角間に一黒點あり、兩頬に各一黒紋あり、兩鬚(各節の尖端を除き)黒褐、上唇に二個の小褐點あり 前胸背に八(兩側に三個宛、中央に二個)、中胸背に二黒點あり 脚淡黄褐 翅透明、縁紋稍不透明、脈淡緑乃至黄白、前縁横脈及び段横脈(Venulae gradatae) 黒色、他の横脈は兩端(中央を除く)のみ黒色なり」

體 長 9 耗

前翅長 12 耗

分布 樺太(ソロウキヨフカ)。

10. *Nothochrysa japonica* M'L. せあかくさかげろう

Nothochrysa japonica MacLachlan, Trans. Ent. Soc., p. 182 (1875).

本種は *N. polychroa* Gerst. (ジャワ産)に相近し、但し翅横脈の彩色によりて區別し得べし。

頭胸部黄又は黄褐色 觸角深黒(但し二基節は黄色) 前胸は長さよりも幅廣く一中溝あり、前胸背は暗赤色、(前胸背の兩側のみ暗赤色なるものあり)、中胸背の前縁に黒色の一横線あり、前肩板(Scapulae anteriores)の兩側黒色、後胸背の兩側黒色 腹部黒色にして其尖端及び各環節の前縁は暗黄なり(マ氏に従へば腹背黄色にして廣き一黒條あり) 脚暗黄、各腿節の尖端に近く一黒環あり、前脛節の

内側は黒色なり」 翅透明、縁紋不透明、脈黄色、前縁脈(基部に近き二三)の下半部黒色、脈に短かき黒毛を密生す」

體 長 11—13 耗

前翅長 16—19 耗

分布 本州(紀伊、京都)、九州(熊本、長崎)、臺灣(新社)。

本種はマ氏(6)が一標本により記載せり、分布廣く臺灣にも産す、但し未だ東北地方及び北海道に産するを知らず。頗る美麗なる種なり。

11. *Nothochrysa olivacea* Gerst. あをせくさかげろう

Nothochrysa olivacea Gerstecker, Mitt. Neu-Vorpom. und Rügen, Ig., 25, p. 74 (1893).

本種はよつほしくさかげろうに類似すれとも斑紋を有せず。

觸角淡黄赤色、その基節及び額は淡き藁色、頭頂及び上唇は黄緑なり」 胸部淡きオリーブ色、前胸稍四角形、その後半部に深き二横溝あり」 脚黄褐色」 翅透明、脈緑色、縁紋黄褐、兩翅に於て前縁横脈の半部、前翅に於ては徑横脈、肘横脈及び臀横脈の基部に近き部分、後翅に於ては徑脈の基部、第二徑小脈の後半及び中脈は所々黒色なり」 腹部は黄褐色」

體 長 15 耗

前翅長 21 耗

分布 本州(?)

本種はゲ氏(7)によりて發表せらる(採集地横濱、然れども余未だ本種を見ず。

12. *Apochrysa matsumurae* Okam. あみめくさかげろう

Apochrysa matsumurae Okamoto, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., Vol. 4, pt. 1, p. 13, Fig. 1 (1912).

體黄白」 觸角暗黄、第一基節は外側に赤紫色の一縦線を有し、第二節の外側は暗褐色を呈す、額片は兩側に赤紫色の一斑紋を有す」 前胸の側縁は赤紫色」 後腿節は先端に近く暗褐の一環を具ふ」 腹部の各節は兩側に赤紫色の一線を有す

翅透明、前翅の中央に（後縁に近く）一大暗灰色紋あり、徑小脈の徑脈に交はる個處に同色の一小紋あり、此兩紋を連ぬる横脈は暗灰色なり、翅脈殆んど無色、段横脈 (*Venillas gradiformis*) は前翅に三連、後翅に二連あり」

體 長 12—23 耗

前翅長 22—24 耗

分布 九州 (鹿兒島)。

本種は著者 (12) の發表せる種にして極めて珍種なり、本邦に産する草蜻蛉中本屬に於ける第一種なり。

固に、本種の翅に横脈頗る多きを以て翅脈網狀を呈す、之れ本種を呼ぶにあみめくさかげろうの名を以てせる所以なり。

東北帝國大學農科大學に於て。

主 なる 参 考 書 Literatur.

1. Burmeister, H.—Handbuch der Entomologie, 2 Bd. 1839.
2. Schneider, G.T.—Symbolae ad Monographiam Generis Chrysopae, Leach. 1851.
3. Walker, Fr.—List of the Specimens of Neuropterous Insects in the Collection of the British Museum, part II.—(Sialidae, Nemopterides). 1853.
4. Hagen, H.—Synopsis of the Neuroptera of North America. 1861.
5. MacLachlan, R.—New Genera and Species, &c., of Neuropterous Insects; and a Revision of Mr. F. Walker's British Museum Catalogue of Neuroptera, part II (1853) as far as the end of the Genus Myrmeleon (Linn. Proc.- Zoology, Vol. IX. 1867).
6. ——— A sketch of our present Knowledge of the Neuropterous Fauna of Japan (Trans. Ent. Soc., pt. II. 1875).
7. Gerstaecker, A.—Ueber neue und weniger gekannte Neuropteren aus der

- Familie Megaloptera Burm. (Mitt. Naturw. Vereins f. Neu-Vorpommern und Rügen. 1893).
8. MacLachlan, R.—Trans. Ent. Soc. Lond., p. 230 (1893).
 9. Navás, L.—Crisópidos Nuevos (Brotéria Serie Zool., Vol. IX, fasc. 1. 1910).
 10. Matsumura, S.—Erster Beitrag zur Insekten-Fauna von Sachalin (Journ. Col. Agr. Tohoku Imp. Univ. Sapporo, Vol. IV, pt. 1. 1911).
 11. Navás, L.—Quelques Nevroptères de la Sibérie méridionale-orientale (Revue Russe d'Entom., XII, 1912).
 12. Okamoto, H.—Eine neue Chrysopiden-Art Japans (Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., Vol. IV, pt. I. 1912).
 13. 松村博士著——日本千蟲圖解卷之一、明治三十七年。
 14. 岡本半次郎著——北海道に於ける脈翅目 (札幌博物學會報第一卷第一號、明治三十八年——三十九年)。
 15. 桑名伊之吉著——益蟲飼育成蹟 (農商務省農事試驗場報告第三十六號、明治四十二年六月)。
-